22 「死んだ後のことはどうでもいい」の？

Q ひとりなので、死んだ後のことはどうでもいいと思っています。
［50代］

A 亡くなった後への備えは、遺されたご家族等のためにする面が大きいとはいえ、ご遺族の有無に関わらず、生きている間のご自身のためにする面もあるように思います。

生きている間の自分自身のために（個人の視点）

亡くなった後のために、手続きの面（誰が何をどうするか）とお金の面（入院費・葬儀費、遺産相続等）で備えておくこと。この死後への備えは、ご遺族がいる場合でもいない場合でも、次の点で、生きている間のご自身のためになります。

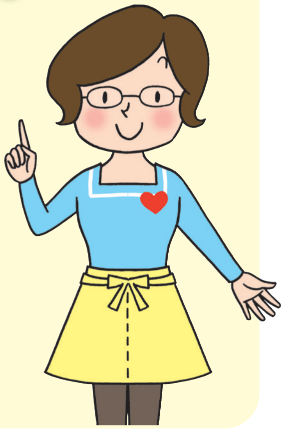
- ●死後を託す相手（遺族以外を含む）とのつながりが作られたり強まったりする。
- ●死後の備えがあることで入院時や施設入居時・賃貸契約時等の信用が高まる。
- ●死やその前後のことについて、生きているうちから安心できるようになる。

自分で備えたほうが負担は少ない（社会の視点）

ご自身ですれば簡単な手続きも、他の人がすると大変なことが往々にしてあります。死後に備えていれば、手続きをするご遺族の負担は小さくすみます。ご遺族がいないか疎遠な場合であっても、手続きに関わる市区町村や医療機関・介護施設、賃貸住宅の家主等の負担が小さくすみます。逆に、死後に対する社会の負担が増すと、くらしを支える社会の余力がそれだけ減るため、ご自身が生きている間の生活の質が下がることにつながりかねません。

死を大切にすることで生が尊重される

例えば育児や趣味を想像してみてください。「大切だから手間をかける」ことがある一方、「手間をかけているから大切」ということもあるでしょう。死に対しても、生前はご自身が手間をかけ、死後は他の人に手間をかけてもらう。そういうことを通じて、ご自身の死が大切にされ、さらにはご自身の生も尊重される、ということもあるのではないでしょうか。

組合員の声

親を看取った経験から、葬儀の仕方や永代供養先を決めておいて費用を残しておくと、子どもたちがとても助かります。［50代］